

S.G. Report

No.7

『済々エコ若ラボ 2』

環境省 九州パートナーシップオフィス 澤 克彦 先生 講話

- 日時： 平成26年10月28日（火）本校体育館
- 参加者： 本校一学年および職員
- 講演者： 環境省 九州パートナーシップオフィス 澤 克彦 先生
- テーマ： 済々エコ若ラボ2



《

講演趣旨》

(1) 済々エコ若ラボ1のふりかえり

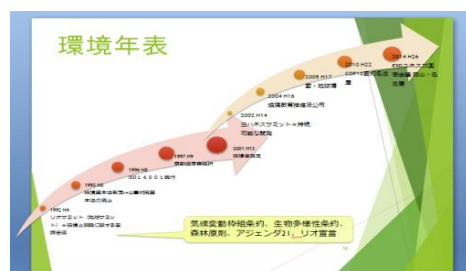
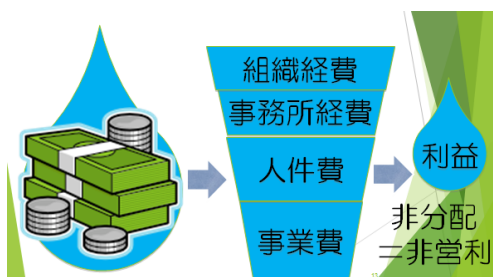
- ・環境問題は、自然環境に加え、人間社会の間にある問題＝コミュニケーションの問題を含んでいる。
- ・持続可能な社会では、様々な課題の規模・影響が多様化している。誰かが解決してくれるものではないので、自らの行動で変えていこう。自分を高める技術や知識を、世の中、社会のために使う。物事の捉えかた、複眼的にとらえてみるのが大切である。
- ・熊本の環境地域づくりを英語で考えることができる力を期待している。

(2) 専門家とは？

- ・専門家とは技術・芸術・その他特定の職域に精通し、専門的な知識と能力のある人のこと。
- ・ある物事の体系を理解し、問題・課題解決に向き合っている人。
- ・科学者もいれば、職人、技術者など職業もさまざま。

(3) NPOとは？

- ・No(n) (for) Profit Organizationの略称で、様々な社会貢献活動を行う社会貢献活動を行う、非営利団体の総称である。
- ・NPOの活動には活動費だけでなく、事業費や人件費など様々な費用が必要であり、利益を目的としない、ということではなく、利益が分配されないということである。



《生徒アンケート結果より》

(1) 生徒の関心項目

① 酸性雨	63	② 大気汚染	77	③ 地球温暖化	181
④ オゾン層の破壊	106	⑤ 森林減少	61	⑥ 砂漠化	59
⑦ 有害物質の越境	84	⑧ 海洋汚染	115	⑨ 生物多様性の減少	132
⑩ 異常気象	250	⑪ その他	10	(バイオマス、環境とレジ袋、エネルギー、エコ)	

(2) 今回の研修で印象に残っていることは？

- ・物事を「暮らしの視点」、「社会の視点」、「科学の視点」の3つの視点から見るのが大切だということ。
- ・インターネットの情報(ウィキペディア)に頼らず、色々なところから情報を集めること。
- ・分科会へ取り組む際に気をつけたいこと。話しをただ聞くだけでなく、事前に調べ、質問することが大切だと分かった。
- ・様々な視点で物事を見るのが大切だと分かったので、分科会では専門家の方の視点を取り入れたいと思う。
- ・環境年表で環境に関する会議であったり、法律などがたくさん行われていることに印象が残った。
- ・受け身で講演会を受けるのではなく、積極的に考え方を学んでいきたいと思う。
- ・ただ知識を得るだけでなく、それについて考えて意見を交換していくことが大切だと言うことが最も印象に残っている。
- ・自分の気になったことをすすんで調べていって、質問をたくさんしていって、それで得られた自分の足跡(情報)を見直していくことが大切だと思った。
- ・多様な環境問題をいろいろな視点から学ぶということ。人から聞いて同じ意見だったり違った意見を得たり自分で調べたりすることが大事だと思った。
- ・環境問題はここ20年間で浮上してきたものだと言うことが印象に残りました。現代は技術の発達が著しく、世の中が便利になっていく一方で、環境が悪化している事実を改めて知った。

(3) 今回の講演を聞いて、もっと知りたい・学びたいと思ったことは？

- ・分科会が楽しみになった。もっと酸性雨などについて詳しく知りたい。
- ・これから環境はどうなるのか、どう研究していくのか知りたい。
- ・世界のいろいろな場所の環境問題についてよく知りたいと思った。そのため地元熊本のことについてしっかり理解を深めていきたい。
- ・環境に対する関心を持つことは大切で、水俣病など自分の身近にある問題は意外と多いことに気づいた。
- ・環境問題と歴史のつながり、海洋汚染や大気汚染についてもっと学びたいと思った。